
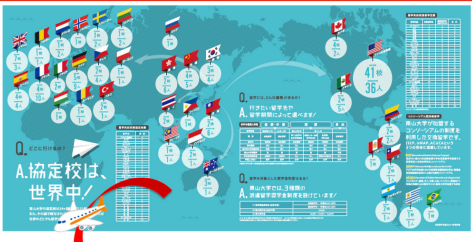


NU-COIL LETTER

POWER OF COLLABORATION

VOL.2

ターゲットは南山大学の協定校 世界33か国 115校の大学生 



Nanzan Anime Mnaga Program (仮)

- ・日本文化とアニメ・マンガとの関係性
- ・アニメ・マンガの歴史と日本社会

※今回のターゲットはアメリカ人学生です



小野 詩紀子 *Shikiko Ono*

【国際産官学連携PBL 科目】

南山大学国際センターは、「東海」×「英語で日本留学」×「アニメ・マンガ」という切り口で、2022年夏に始動する外国人学生向けの新しい留学プログラムを構想しています。今回の授業では、この留学プログラムのフィールドトリップを、学生に米国の学生とコラボレーションをして検討してもらいます。今年の4月に、この授業を国際センター長の山岸先生と担当するという話を聞いた際に、「なるほど、学生にとって実りが多く、面白そうな授業だなあ」と受け取ったのですが、この目線は授業を受ける側のもので、これを開講するまでに、Behind the sceneがいかに複雑なものであるか、私はまだ気づいていませんでした。複数のステークホルダーと合意を取りながら作り上げるプロセスを体験し、今後私自身が意識しておきたい点をここに書き留めておきたいと思います。

・課題は何かの定義をする。

(学生が作り上げる最終プロダクトの決定をふんわりとしておくと、後々苦労する。最初にしっかりと定義しておくと、プロジェクト進行がブレません。)

・学生が課題に取り組むプロセスの合意をとっておく。

(連携校の先生と、学生同士のコラボレーションの進行について合意をとっておく。)

・外部講師の方には、要望をクリアに伝える。

(上記の2点がクリアになると、この要望もクリアになってくる。)

・感謝の気持ちを忘れずに。

(学生の学び、経験のために協力してくださる関係者の方への感謝の気持ちを忘れずに進行する。)

この4ヶ月間で改めて学んだ上記の4点は、グループプロジェクトの進行において大切な視点だと感じており、意識的に参加学生にも伝えるようにしています。授業が終わった時に、「プロダクト」、「プロセス」、「感謝の気持ち」、この3つの言葉が学生に残るよう、サポートしていきたいと思います！